

---

# 朱の紋様

恵美麻琴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

朱の紋様

### 【Nコード】

N6115K

### 【作者名】

恵美麻琴

### 【あらすじ】

主人公のOL・宮崎鈴花が異世界に飛ぶファンタジー物です。何故自分が異世界に迷いこんでしまったのか、その謎を確かめるべく旅立ちます。時に危険な目にあいながらも、様々な人々や仲間と協力し合いながら冒険をする・・・予定です。

## 初見

小鳥のさえずりが聞こえる。

木々が揺れ、葉がこすれあう音が聞こえる。

東京に来て久しく、このような音は聞いていない。

思い切り息を吸い込む。

新鮮な空気が肺を満たす。

田舎に帰りたいなあ。

。。。。。

ふと、疑問に思う。

ここ、どこ？

はっと目を覚まして周囲を見渡すと、全く見たことがない場所だった。一面木々の枝や葉に覆われ空は見えない。しかしどこからは日の光が紛れ込み、薄暗くはあるが地を照らしている。地には所々草花が生えている。

どう考えてみても、森だった。

夢？。。。にしてはリアルだ。地についている手は、きちんと大地を掴んでいる感触がある。そういえば、家の近くに林のある市立の憩い場がある。そこにも紛れ込んだのだろうか？昨日は確か、後輩に誘われて飲みに行った。そんな酔い潰れる程ではなく、きちんと家に帰り布団を被って寝た筈だ。周囲を見る限り自信は無いが。。。

どうなっているのか、さっぱりわからない。が、こんな道もない人が歩かなそうな場所に居てもしょうがない事だけはわかる。

とりあえず誰かを見つけてここがどこか訪ねてみよう。

そう思いとりあえず立ち上がってみたは良いものの、見回したところの方角がわからない。木々の隙間から覗いてみても、建物らし

きものも見えない。道も見あたらなかった。

こんな木ばかりが生えた深い場所なんてあったらどうか？疑問に思いつつも何時までもこうしている訳にもいかず、木々の隙間が比較的大きい方に歩き出した。

今日は欠勤だな。と思つて気づく。

「会社に電話しないと！」

あまりの異常事態にすっかり忘れていた。日は見えないが明るさからいつて昼近いのでは無いだろうか？

「無断欠勤かぁ……。課長にどやされる……。」

これでまた昇進から一步遠のいてしまった。ただでさえ課長には怒られてばかりだというのに。昇進試験に誘つてもらえるのは何時の日になるのだろうか。

シヨックを受けながらも携帯を探そうと自分の体を見下ろして、

また一言。

「……。なに？この格好」

見たことも無いような格好をしている。強いて言うならば、よくファンタジー物の漫画などで見かける服だ。頭から被るタイプの上着。下にはタートルネックの体にぴったりとした長袖の服。腰には長い布を巻いて横でくくり、後は垂らしている。ズボンは若干大きめで裾は靴の中。靴だけはどこにでも売つてそうな紐のブーツだ。

……。コスプレなど一度もした事が無いのだが。

同僚に見られたら笑われそうな格好だ。こんな格好で人と出会つても変質者に思われまいだろうか？しかもどつからどう見ても男物に見える。ただでさえ普段から『少年風』と評されているというのに。今の自分はきつと女には見えないだろう。

困つた時の癖で腰に手を当てる……。と、そこに入れ物があった。革製で中がふくらんでいる。腰布の下に紐でくくりつけられていた。今まで気付かなかつたのが不思議なくらい、結構な重みがある。恐る恐る中を確認すると、干し肉とチーズとパン、それに見たことも無いメダルが数枚入っていた。

ここまで来ると、さすがに寝惚けているとか、昨日酔っぱらって近所で寝てましたとかいうレベルの問題ではない。いたずらにしては手が込み過ぎているが、それしか考えられない。

「誰よ！こんな事するの！暇人過ぎ！」

憤慨してみるが、だからといって事が進展する訳でもなかった。

「携帯もない・・・か。昇進が遠のいたどころじゃないなあ。一生させてもらえないかも・・・」

途方に暮れながら、また歩き出す。

「こんな事した犯人をとつと捕まえないと！ぶちのめしてやる！」

何かしゃべっていないと間が持たず、女性とは思えないような独り言をブツブツと呟きながら木々の間を通り抜けていった。

## 初見（後書き）

初めて書く小説のはしりをとつとつ書いてしまいました・・・。  
極力定期的に更新しようと思います。  
長い目でお付き合いください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6115k/>

---

朱の紋様

2010年10月17日04時38分発行